

差別事件を共有し、 ともに闘おう！

共闘交流会

部落解放共闘近畿・九州ブロック第28回交流会を9月5日・6日の両日、滋賀県彦根市のマリアーージュ彦根でひらかれ、和歌山から杉谷〇〇議長をはじめ5人、近畿・九州各府県共闘、中央共闘あわせ101人が参加した。

坂本三郎・兵庫県連執行委員長の開会あいさつのあと、近畿ブロックの山田清・議長、九州ブロックの上田淳・議長があいさつし、中央共闘の高橋定・事務局次長、彦根市の大久保・貴市長から来賓あいさつをうけた。

交流会の基調を近畿ブロックの赤井隆史・事務局次長から、人権をめぐる情勢や人権政策確立に向けた解放共闘の課題、連携強化を

提案した。その後、近畿ブロックからの活動報告として、和歌山県共闘会議の宮本修作・事務局次長から就職差別撤廃月間の要請行動など、県共闘の主な活動報告やY住宅販売会社差別事件などを報告した。その他、京都地方共闘会議の岡本哲也・事務局次長、九州ブロックから宮崎県民会議の佐藤真・議長がそれぞれ活動報告をおこなった。

地元からの報告を滋賀

県連の丸本千悟・書記次長が「滋賀県における部落解放運動の現状」として報告し、夕食・懇親会では和やかに懇談・交流し1日目を終えた。なお、22年間近畿ブロックの議長を務めた田上武・前議長に記念品と花束の贈呈があり、滋賀の山田清・議長が新たに就任した。

2日目は、彦根市地域総合センター人権・福祉交流館(WAつとねす春日)と滋賀県平和祈念館・飛行機収納庫あとなど戦跡見学が2班にわかれてフィールドワークをした。

「WAつとねす」・広野地域フィールドワークでは、71年に移転・新築された、職員は教師2人を含む11人、世帯構成は620世帯

1351人で主に土木・農業・琵琶湖の漁業に従事するなど館や地域の概要、運動の歴史について交流会館

の神細工信二・館長と藤野政信・県連委員長から説明を受け、地域内をフィールドワークした。近くを流れる

新市長のもと、交渉

橋本市交渉

橋本市教育文化会館で8月29日、2014年度対橋本市交渉をおこなった。橋本市から4月に新市長に就任した平木哲郎・市長をはじめ、30人の職員、県連から飯田敬文・県連副委員長、橋本・伏原・名古屋支部から約40人、事務局2人が参加した。

平木市長が橋本市の同和行政へのとりくみについての方向性を示したが、「同和問題」の解決は『行政の責務』であると強調しながらも、新市長の重点政策6項目のなかに組み込まれていないうえ、基本要求の回

答が平成22年度の市民意識調査報告の数字を並べたものや法制度は国や県に要望するだけの姿勢である。また「臭いものに蓋をするのではなく、同和問題について正しい理解ができる教育・啓発が必要」という表現にたいし同盟側から厳しい非難を受けた。また、橋本市で多くの差別事件が発生していることについて「法期限後に人権研修・啓発などをおろそかにしてきた結果でないのか」との意見がでた。同和教育については、橋本市の全小中学校が小中一貫教育の研究・実践を実施していることをふくめ、広い意味の『人権教育』だけでなく部落の子どもたちにもそくした、きめ細かい「同和教育」を推進していくよう要求した。時間の都合で話し合えなかった個別要求、および今回の回答の修正を2次交渉でおこなう。

る川底より低い土地にあり、川の氾濫で被害にあってきたことや日中・太平洋戦争などで亡くなった多く

の若者の戦没碑がある墓地などを見学した。

ともに闘おう！とを誓いあつて……

共闘総会

部落解放和歌山県共闘会議第39回定期総会を9月12日、同和企業センターでひらかれ、労働組合、県連

各支部から120人が参加した。

杉谷雅史・議長が「昨年、議長を務めてこられた田上武・議長から引き

継ぎ、なんとか1年やってきた。14年度活動方針案を組織強化につな



あいさつする杉谷雅史・議長

「今後は地域共闘の活動も広めていきたい」とあいさつした。また「本人通知制度」の推進に向け、参加者全員に登録を呼びかけた。

(詳細は次頁に)

主張

抑圧に抗したダンス

イギリスからの独立の是非を問う住民投票が9月、スコットランドで実施され、日本でも大きなニュースになった。投票結果は、反対が10・6%上回り、スコットランドの独立は先送りとなった。スコットランドとともに、厳しい歴史を強いられしてきた地域として、アイリッシュダンス発祥の地として有名なアイルランドがある。しかし、アイリッシュダンスの歴史は、イングランドによる支配のなかから誕生するという悲しい歴史が背景にある。1530年ごろに

は、イングランド王による完全支配がはじまり、アイルランドの伝統的な文化活動が一切禁止され、その後400年もつづく支配のなかで、親から子どもへステップが語り継がれていった。

また、タップダンスも同様、差別されてきた歴史をもつ。白人の奴隷として大規模なプランテーションでの強制労働につながれてきた黒人たちは、労働後にドラムを打ち、独自のビート

差別と抑圧、命までもが搾取する側に委ねられていた状況下で生まれたダンスは、彼らの生への魂の叫びである。床をふみ鳴らすリズムは、差別や抑圧への抗議の声であり、足の動き

を邪魔しない上半身は、抑圧された長い年月を耐え抜いた静かな抵抗である。さらに、何世代にも受け継がれたリズムは、これまでの抑圧に抵抗し、解き放たれた民族としての誇りなのだ。

もつばら、椅子に座りながら足を踏み鳴らすステップがであったが、シンプルな踊りから複雑なリズムをもたなう芸術を有した舞踏へと進化していくことになった。

を刻み、過酷な労働への安息としていた。そこにジャズとともにタップが生まれた。しかし、黒人の処遇は「黒人法」によって規制され、従わない奴隷は笞打ちが認められ、想像を絶する。

を刻み、過酷な労働への安息としていた。そこにジャズとともにタップが生まれた。しかし、黒人の処遇は「黒人法」によって規制され、従わない奴隷は笞打ちが認められ、想像を絶する。

を刻み、過酷な労働への安息としていた。そこにジャズとともにタップが生まれた。しかし、黒人の処遇は「黒人法」によって規制され、従わない奴隷は笞打ちが認められ、想像を絶する。

文化の窓

映画

「インビクタス／負けざる者たち」

監督:クリント・イーストウッド
出演:モーガンフリーマン、マット・デーモン
2009年/132分/米国

アパートヘイトの余波が残るなか、大統領に就任したネルソン・マンデラ。「国の恥」とまでいわれたラグビー南アフリカ代表チームを初出場優勝へと導いた。白人黒人混合チームが繰り広げる奇跡とは。



「インビクタス」は「征服されない、屈服しない」を意味する。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073-473-2301